

令和4年度 授業改善推進プラン 2 年

小平市立小平第十一小学校

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②学びを深めるための「他者との対話」の充実【校内研究】	①アンケート項目「考える力がついてきたか」に対して「とても思う」と回答した児童は約5割であり、言語活動の充実を図るため「考え、書く」活動への意欲を高める必要がある。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約6割であり、さらに「他者との対話」の充実を通して、児童が「分かった」と実感する授業の展開を進めていく必要がある。	①言葉の意味を丁寧に扱ったり言葉遊びしたりして身近なことを表す語句の量を増やす。また文章を順序立てて書く活動を通して、言葉で伝えるよさを実感できるようにする。 ②話し合いの視点や話型を具体的に示したり、教師が見本となって対話の仕方を提示したりして、「できた、分かった」と実感できる授業の展開を工夫する。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②考えや気付きを式や図、グラフ等を活用しながら伝える活動の充実【校内研究】	①東京ベーシックドリルの診断テストで前学年の既習内容を7割以上定着している児童は4月の時点で62%だったが、7月では74%まで向上した。 ②1学期の授業アンケートから8割以上の児童が学習にすすんで取り組んでおり、授業でも積極的な発言や意欲的な姿勢が多くみられる。しかし、自分の考えを式や図、グラフ等を活用しながら表現する活動には「難しい」という苦手意識がある児童も多い。	①東京ベーシックの活用を進め、さらに7割以上の児童を8割にまで高める。学期始の診断テストで7割に満たない児童は補充学習を各学級で行う。学期末の診断テストを活用し、その結果を評価する。 ②ICTを活用し、模範児童の式や図、グラフ等を活用しながら表現する活動の手本を示すことで全ての児童に表現活動の方法を理解させる。思考・判断・表現の観点での学期末のテストの点数により授業改善の評価を行う。
生活	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②具体的な活動や体験の充実（学習材との対話）【校内研究】	①生活科を楽しんでいる児童は多くいるが、振り返りをさせると、「楽しかった」など振り返りがめあてからはなれてしまう児童がいる。 ②児童の興味関心が一人一人違うことにより、活動や体験の内容によって児童の意欲に個人差がある。	①何のためにその学習をしているかというめあてを毎時間視覚的に分かるように提示しておき、振り返りをする際には必ずめあてに沿って振り返りを行うようにする。 ②単元計画をたてる際に、児童が興味関心を高められるような学習材を選ぶようにする。また、より具体的に体験的に学びを深められるよう、校内施設や校外施設、ゲストティーチャーを活用する。
音楽	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②視点を明確にした丁寧なふり返り【校内研究】	①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」と回答した児童が66%であり、授業内容が思っていた以上に難しいと感じている児童も見られる。「やりたい」と「やれない」のギャップがある。振り返る活動を通して、「分かった（できた）」を実感する学習を重ねる必要がある。 ②学習の到達目標が、活動内容とどのように結びついているのかを明確にし、児童にわかりやすいように視覚化するなどの工夫を行う必要がある。	①毎時、授業始めにめあてをホワイトボードに板書し、視覚的に分かりやすくすることで、児童が集中して取り組めるようにする。 ②ワークシートの活用で、学習のめあてに対する成果や課題を明確にし、振り返りを行う。また、視点を明確にした振り返りで、具体的に課題を捉えたり改善したりすることができるようにする。
図画工作	①児童が「自分（たち）の学習を自分（たち）でつくる」授業の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」の充実【校内研究】	①1学期の授業アンケートの結果から9割以上の児童が学習にすすんで取り組んでいるが、自分の作品づくりに取り組むことに時間がかかる児童の姿も見られる。 ②アンケート結果から授業に集中して取り組んでいることが分かる。一方で、友達のよさを認め合ったり、取り入れたりする姿があまり見られない。	①②教師の見本（複数の種類、教師のねらいを落とし込んだものなど）を充実させたり、友達の作品を共有する時間を設定させたりする。年間の活動を通して、単元ごとのよさや面白さに気付かせて行きたい。
体育	①運動の日常化、体育的活動の充実【学校経営方針】 ②ふり返り活動の充実 ～良さ・変化・課題～【校内研究】	①1学期の授業アンケートの結果から9割以上の児童が学習にすすんで取り組んでいることが分かり、授業で取り組んだ活動を日常の休み時間の遊びに取り入れている様子も見られる。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」において、9割以上の児童が分かりやすいと実感しており、定期的な振り返りを行い児童の「分かった」をさらに高めていく必要がある。	①より運動の日常化につながるように、児童が取り入れやすい（真似しやすい）活動を授業に設定していく。また、教師自身が休み時間に児童と共に活動すると共に、児童の実態を把握し、授業に生かしていく。 ②児童の「分かった」を高めていくために、活動に合った振り返り（ハンドサイン・挙手、ワークシートなど）を行っていく。また振り返りのタイミング（毎時、単元ごとなど）も図りながら行っていく。

<p>道徳</p>	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②多様な視点での気づき、振り返り活動の充実～良さ・変化・生き方～【校内研究】</p>	<p>①教材文の登場人物の立場になって、考えを書いたり発表したりすることは概ねできているが、自分自身の生活に置き換えて考えることが難しい児童がいるため、児童の生活に即した授業の工夫が必要である。</p> <p>②アンケート項目「自分によいところがある」に対して「とてもおもう」と回答した児童は6割であり、自己の特徴やよさを認識し、よりよく生きていこうとする意欲を高める必要がある。</p>	<p>①授業の内容項目に関わる事象を児童の実態や経験に即し、<u>自分自身の問題として受け止められるようにする</u>。そこから伸ばしたい自己を見つめ、実現していこうとする思いや願いをもてるようにする。</p> <p>②「他者との対話」を通して、<u>友達のよさや自分の特徴に気付くことができるようにする</u>。また振り返りを通して、<u>自己の変容や成長を理解し、課題や目標を見付けることができるようにする</u>。</p>
-----------	--	--	--